



VALORIZE ROTARY
COM
FÉ E ENTUSIASMO

ロータリーを高めよ 思いを尽くし熱意を尽くし

1990-91年度国際ロータリーのテーマ

- 国際ロータリー会長 パウロV.Cコスタ ●第256地区ガバナー 原 猛
- 会長——小林九満太 ●副会長——渡辺 宏策 ●幹事——斎藤 弘文
- SAA——渡辺 喜彦、五十嵐 力 ●例会日——毎週水曜日 12:30～
- 例会場——三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店 TEL 34-3311
- 事務局——三条市旭町2-5-10 TEL 35-3477

(FAXも同番号 午後3時以後はFAXに切り替わります)

- クラブ会報委員——渋谷 正一、金沢 興宗、木許 紘一、池田 千秋

出席者会員数 会員 77名中 47名

先々週出席率 90.54% (前年同期 83.58%)

今日のお花 黄色ユリ、ガーベラ

ヴィジター 三条南より 田中正佐久君、馬場信彦君
三条北より 山下 厚君、落合益夫君

ゲスト BSN新潟放送アナウンサー 中岡みち殿

先週のメイクアップ

1/8	三条北へ	堀川政雄君、近藤雄介君
1/9	札幌西北へ	五十嵐晋三君
1/10	燕へ	細井増雄君、轡田秋夫君
1/14	大阪西へ	堀川政雄君
1/14	三条南へ	古沢富雄君、五十嵐晋三君、熊倉昌平君
1/16	新潟南へ	渋谷健一君
1/17	加茂へ	山谷春夫君
1/17	燕へ	岩井数央君、加藤紋次郎君
1/18	名古屋港へ	五十嵐晋三君

- 1/21 三条南へ 近藤雄介君、金子左武郎君、渡辺勝利君、
加藤紋次郎君、長谷川有美君
1/22 三条北へ 大谷幸平君、広岡豊作君
1/22 新潟へ 渡辺勝利君

会長挨拶 小林(九)会長

湾岸戦争が遂に勃発しました。第一報が入った17日には、鎧袖1触ではないか、と言うことで、株は暴騰、円も高く石油は急落しましたが、ここに来て長期戦の様相を呈して来たことと云うことで憂色もただよい出しました。このどさくさの中で、ソ連軍のバルト3国への武力弾圧も世界の心配ごとです。いずれも早く取って欲しいと願うものです。

今日23日は上木プログラム委員長のお骨折りで、去年の早い時期に内山市長をお招きして卓話を頂くことに決定して居りましたが、ここに来て市長の日程のやりくりがつかぬと云うことで中止になりました。毎年正月に行われて来た市長の卓話は今年はどう云うことになりますか。上木委員長は2月27日に予定しているとのことでございます。

幹事報告 斎藤(弘)幹事

◎太田ローターアクトクラブより

太田RAC創立20周年記念式典のご案内がとどいております。

とき 3月10日(日)
ところ ソシアルプラザふじや会館
登録料 10,000円

◎例会変更のお知らせ!

三条南RC——1月28日(月) 新年会 PM6:30~ 於 魚 作
三条北RC——1月27日(火) 新年会 PM6:30~ 於 さどや

ニコニコボックス ¥19,000

田中正佐久君(三条南RC)

あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしく申し上げます。

渡辺(宏)君 次年度委員会名簿を発表させて頂きました。よろしくご協力のほどお願い申し上げます。

五十嵐(総)君 本年もよろしく。

外山(雅)君 シンワ測定(渡辺勝利社長)さんの中小企業研究センター第2千回センター賞受賞お祝い申し上げます。

内山(辰)君 ニコニコボックスの席に座りましたので。

- 上木君 本日の卓話、BSNの中岡さん、お忙しいところ有難うご座いました。
佐藤君 新年早々の例会欠席し、あらためてお目でございます。今年もよろしく。
高橋(一)君 ハワイで10日間のバカンスを楽しんできました。
内山(昭)君 伊藤廣一さんのヒゲを拝見させていただき喜ばしく感じます。
荻根沢君 新年明けましておめでとうございます。久方振りの例会出席です。本年も宜しくお願い致します。
伊藤君 新年明けましてお目出とうございます。入院の節は会より過分のお見舞を頂きましたこと厚く御礼申し上げます。お陰様で本日の例会より出席できる程回復致しました。又沢山の賀状を頂いたにも拘わらず止む得ず欠礼致していますこと深くお詫び申し上げます。
広瀬君 今日のゲストは私どもの中岡アナウンサーですよろしく申し上げます。

卓話 BSN新潟放送 中岡みち殿

はじめまして、中岡みちです。BSN新潟放送は、皆様に大変お世話になりありがとうございます。短い時間ですが自己紹介を兼ねて、私どもが日頃取り組んでいるアナウンスの仕事の一端でもご理解いただければと思います。

はじめに、私は東京都品川区に生まれ、都立高校、青山学院大を卒業し、アナウンサーを志望して新潟放送に入社しました。入社試験を受けに特急トキで4時間、新潟駅に降り立ったのが新潟との初めての出会いでした。

一般にアナウンサーを目指す人にはこういった光景が多いのです。当時民放・FM局もまだ少なく、東京の放送局ですら一年間に多くて20人程度の採用しかないにもかかわらず、2~3千人の人たちが受けるわけですから、本当にこの職業を志望する人は全国を回ることになるのです。私もその中の一人でした。以来新潟に来てあと少しで東京にいた時の半分の年月を新潟で過ごすこととなります。私にとって新潟はもう故里同然です。

ところで、そもそもアナウンサーを志望した動機は、人と接する仕事につきたいと思ったことからです。一度しかない人生、巡り合う人が多ければ多いほど、何倍にも生きられるのではと感じたからです。

私たちの仕事は大きく分けて三つあります。(勿論お茶を入れたり、コピーをしたりしますが…)一つは、原稿を読むこと…ニュースナレーション等、二つ目は、アドリブ…ラジオの自由なお喋り等、そして三つ目は、インタビュー…これは私がアナウンサーになっ



た動機のかな要素の一つです。そこでインタビュー奮戦記を少々披露したいと思います。
まず各地のお祭り特番からそれははじまります。必ずあるのは民謡流し。踊り子さんにお祭りの感想を聞くわけですが、ディレクターからこの人に聞いてといわれるとマイクを持って「どちらからですか?」と聞きます。それがマイクを向けた途端逃げられる、或いはハイとかイエとしか聞き出せないのです。焦れば焦るほど質問がかたまってしまって、気が付くと「お祭りはどうでしたか?」としか聞いておらず、結局何一つ良い言葉を引き出せないで終わってしまうのです。これは質問事項に因われて、回りが全く見えなくなってしまうことからおこるものです。

例えば昼行事で天狗様の格好をした人に感想を聞く時も、お面の下からちらりと覗く汗に気付くとか、高下駄の鼻緒でできた足のマメに目をやるとか、全体を見ることで分かることでも、質問に因われていると他のことが見えなくなってしまうのです。インタビューは全体を見て気付いたこと一つでもそこから話を広げていく、その結果その人特有のお話
が得られるものです。これが分かるようになるまでかなり時間がかかりました。

又、インタビューする方々を自分で探し出すことも大切です。そのためには取材にいてもポーとしていてはダメです。常にキョロキョロと回りを観察し、話のとっかかりをみつけ出す目を養わなければなりません。

この他まだまだ高度な技術が必要ですが、結局は今申し上げたことに戻るのではないかとつくづく考える毎日です。今もなお失敗の連続ですが、今まで巡り合った、又これから巡り合うお一人お一人を大切に、これからも全力でぶつかっていきたいと思っています。どうか皆様のご支援をお願いいたします。

1月30日例会 卓話 熊倉昌平会員

1月9日例会 新年会 PM6:30~ 於 松木屋

2月13日例会 卓話 国際協力事業団技術専門家 岩崎重義殿

PolioPlus



「開発途上国の新生児を対称に
ワクチン投与資金協力を」